

【3】今の私にできることは何？

1. 子どもへの接し方

(1) 認める・受け入れる

- ・価値観を受け入れる ・価値観。個性を受け入れる
- ・認める。失敗してもよい環境を作る
- ・すべての子どもを受けとめられる大人になる。
- ・子どもの気持ちに寄りそう
- ・子どもの心に寄りそう(でも、やっぱり人や自分を傷つけることはダメという指導も大切)。
- ・学校に行くことをふつうのことと思わない。がんばっていている子どもを受け止める
- ・子どもを信じる。子どもの友達(特徴のある子)に対して偏見をもたない
- ・一人一人を認める。
- ・子とその家庭丸ごと視点をもつこと

(2) 子どもとの関係を

- ・自分の親、子との関係を見直してみる
- ・子どもの色んなところを(かわいい、成長、おもしろい) 見つける、共有する
- ・対等に接する
- ・自分の子にやさしくする
- ・子どもの力をなめない
- ・「教員」「保護者」という目線ではなく、子どもを取りまく大人で見る。
- ・型にはめない

(3) 楽しい授業

- ・怒らずにどう教えるか大人が考える
- ・いっしょに考える。楽しい授業
- ・楽しい授業作り(教える立場で)

2. 子どもの話を聞く・意見を聴く

(1) 聞く

- ・目の前のいる「子どもの声」を聞く ・子どもの意見を聞く練習
- ・子どもたちの声をきく ・子どもの話を最後まで聞く ・子どもの話を聞く
- ・子どもの意見を学校に伝える ・子どもの意見を聞く⇒その時間がもっとほしい
- ・子どもの目線で話を聞く ・子どもの話を心を向けて聴く

- ・子どもの願いを聴く(対話をする) ・まずは目の前の子の話をきいてあげる
- ・子どもたちとたくさん話す。一緒に考える(3年担任です)
- ・保護者として、子どもの意見をとことん聴く!
- ・子どもの意見や行動に対してまず受け入れる。否定することをしない
- ・子どもの意見を否定しない
- ・悩みを聞いてあげる(ただし助言はしません)

(2) 場をつくる

- ・意見を言う場を自分で作る。手段を教える
- ・意見としていえる子にする
- ・子どもにできるだけ自分の言葉で表現するよう仕向ける
- ・SOSをだす。出し方を教える

3. 大人としての自分の姿勢

- ・自分が正直に当たり前に必要なものを子どもの前で大切にしてい
- ・大人が楽しんでいる姿をたくさん見せる
- ・まずは大人自身が好きなことを楽しむ
- ・挨拶、声掛け、楽しそうに生活する
- ・一人一人が自分らしくいる
- ・安心し信頼できる存在であること
- ・大人が心を開く
- ・自分のやるべき職務に誠実に取り組むこと。どんなに激務でも気持ちを落とさずがんばるだけです
- ・「自分の強み」が役立てられるように自分自身を成長させる
- ・まじめ、フツをワキにおいてみる。自分がヒマになるように
- ・<気付く>困っている子、困っている大人
- ・「何かできる」と思い続ける
- ・「学校っていい所だよ」といいながら仕事をする

4. 先生や学校を応援、提案

(1) 応援する

- ・教師を励ましたい
- ・学校に人員が不足している
- ・PTAに関わり(ボランティア制)地域と保護者、先生をつなぐ
- ・時間ができたら(退職したら)学校サポーターになる
- ・保護者も学校のサポーターになりたい
- ・学校 help チームを地域で作る。土壌♡すくいチーム

- ・中野区の学校で月一回の朗読会をやる
- ・視覚障害の私が学校で朗読する
- ・車イス、視覚障害の人と学校に行っていっしょに遊ぶ
- ・学校で子どもたちと一緒に学ぶ&楽しむ。一緒に給食食べて休み時間に遊ぶ
- ・児童支援員が疲弊して休職、退職していますよ！声をあげる
- ・地域から子どもに応援歌を歌う
- ・地域活動、保護者のネットワークで学校サポーターの意識を広める。みんなで学校をつくるという意識
- ・学校の現場をもっと見に行く
- ・学校の敷居を低くする
- ・学校へ足を運ぶ。子どもの場所ではなく私たち場所として意識を変える
- ・学校に行き（行事）先生と話す（対話）。先生の困りごとを聞く
- ・地域の学校の状況にもっと関心をもつ
- ・用事をつくって学校に行く（子どもが卒業しても）

(2) 提案する

- ・コミュニティスクールの仕組みをちゃんと生かせるように働きかけたい
- ・特別支援教室で何をしているか、もう少し公開してほしいと学校に願います（実際すでにそうしている）
- ・発表で「パス」の権利を認めるように学校に提案する
- ・地域の人が自由に学校に協力できるような形を学校に提案する
- ・全員一律の宿題をやめるよう学校に提案する（宿題は子どもが自分で決める）
- ・保護者が学校に文句を言わず意見を言う
- ・子どものしんどさ、学校の先生の大変さからの人員増員を区に要望する

5. 対話・つなぐ・学び・発信

(1) 声かけと対話

- ・学校の行き帰りに声をかけてあげる
- ・親同士もつながりたい
- ・保護者が「主体者」になる機会をつくる
- ・地域の行事などに積極的に参加してつながりをもつ
- ・保護者に寄りそう。保護者を巻き込む
- ・子どもとも大人ともいろいろ話す。保護者、地域の方、先生
- ・学校の中に多様な価値観をもたらす
- ・学校のみならずクラスのみならずでどんなことをするか決める（子どもの意見）
- ・地域交流として、地域の方を学校につなぐ。企画を提案する
- ・反対の意見をもつ人との対話
- ・対話を地域でやっていく
- ・文句ではなく対話をしていく

- ・文句を意見にかえる対話
- ・学校と対話していく。子どもの声を学校・地域に代弁していく(SSWとして)
- ・学校や先生たちに障害のある子どもも認めてほしいから文句ではなく対話したい。(けど、先生は話をきいてくれない)どうしたら良いか・・・
- ・本音で今の教育現場の課題を語っていく
- ・保護者に子どもの自主性(自分の言葉を自由に話せる)に関し理解していただく

(2) 伝える・発信する

- ・文句ではなく意見に変えて社会を変える原動力にする
- ・大人も失敗することを伝えたい
- ・大人も完璧ではない事を、子どもや保護者に理解していただく
- ・「人と人のつながり」をつくる。大人から意識をアップデートする。
- ・既存の学校に対して疑問をもたない人達に情報を共有する。拡散。仲間を増やす
- ・子どもが学び方を多様に選べる社会のよさを周りに伝えていく
- ・自分が発信者になる
- ・学んだことを発信していく
- ・意見を言うこと。黙って逃げないこと
- ・「みんなの学校」を広める
- ・今日の会での気づきをまわりの保護者、地域の人にシェアする
- ・こようコミュニケーションを増やして少しずつ子どもの環境が安心できる社会になるようにできればいいな
- ・今日思ったことを、友人や先生にシェアしてみる。子どもに話して感想を聞いてみる。文句を意見に変えてみる

(3) 学ぶ

- ・自分の固定概念を考え直す
- ・たくさんの人の考えに触れる
- ・自分の意識を変える
- ・こういう講演会に参加する
- ・今日、木村先生に会ってお話を伺いたい、学びたいという気持ちを大事に、これから学び続けていきたい。家族や友人たちと共有していきたい
- ・関心をもつ。関心を広める努力をする

6. 学校以外の居場所

- ・フリースクールを作る
- ・居場所をつくる
- ・環境作り
- ・自由に学校を創る(フリースクール、居場所作りとして)
- ・学校内のことを先生だけにまかせることに無理がある。地域の中に学びの場を広げる。受け入れる

- ・遊び場をつくる。トーキョーコーヒーの活動
 - ・子育て中のお母さんが思い切り話せる場をつくること
- ⇒その中でいっしょにできることを見つける。例えば、一緒に学校と話をするなど

7. その他

- ・温室過ぎても楽しくない
- ・Zoom 会議をすすめる
- ・私がもう一度小学生になりたい